

笠井達彦



駐カザフスタン日本国特命全権大使

生年月日: 1956年3月15日

出身地: 長崎県

学歴

国立長崎大学経済学部卒(1978)

英国バーミンガム大学ロシア東欧研究センター社会学修士(1996)

ビシュケク人文大学名誉博士号(2008)

職歴

- 1978 外務省入省(在英国日本大使館・在ソ連日本大使館)
- 1985 外務省欧亜局ソ連課
- 1991 英国バーミンガム大学ロシア・東欧研究センター
- 1993 在ウクライナ日本大使館
- 1995 在ロシア日本大使館
- 1999 外務省欧州局ロシア課
- 2002 日本国際問題研究所主任研究員兼研究調整部長
- 2005 在キルギス共和国日本大使館臨時代理大使
- 2008 欧州復興開発銀行(EBRD; ロンドン)日本代表理事代理
- 2011 外務省欧州局日ロ経済室長
- 2013 外務省大臣官房国際文化協力室長
- 2014 在ウラジオストク総領事
- 2019.1- 在カザフスタン日本大使館特命全権大使

アカデミック・バックグラウンド(論文等リスト下記)

外交官としての職歴の他、同人はソ連／ロシア／CIS 経済についての研究に従事。英国バーミンガム大学での研究成果である「旧ソ連経済における通貨流通の二重性と1992年までのインフレへの影響」は、OECDにより評価され(OECD 経済調査: 「ロシア連邦」; 2000年3月発行では、同論文につき言及)、以来、OECD のロシア経済移行に関する一連の会合に出席。

また、同人は、2003-05年、一橋大学及び九州大学で教鞭をとった。キルギス勤務時代の2005-08年、ビシュケク人文大学、民族大学、大統領府付属経営アカデミーでも日本経済に関する一連の講義を行った。

興味・趣味

パラグライダー、スノーボード、水泳、ジャズ

家族構成

既婚、娘一人、犬(ヨークシャーテリア)

主要論文及び著書等

- 1996年:「旧ソ連経済における通貨流通の二重性と1992年までのインフレへの影響」, バーミンガム大学
- 2000年3月:ロシアの対CIS外交—対CIS経済関係, ロシア=ベラルーシ統合等—『ロシアの外交』, 平成11年度外務省委託報告書, 日本国際問題研究所
- 2001年:“A Statistical View of the Russian Far East (Positioning of the Russian Far East and a Strategy for a New Development)”, OECD 極東ラウンド・テーブル・プレゼンテーション・ペーパー
- 2002年11月:「市場経済化プロセスにおける外国投資の重要性と諸要素」, 南東欧投資促進セミナー用ペーパー, 日本国際問題研究所
- 2003年3月:「ロシアの対外経済関係を取り巻く環境の変化と経済外交」『[ロシア研究35]9.11事件以後のロシア外交の新展開』, 書籍, 日本国際問題研究所
- 2003年3月:「プーチン政権のロシア企業制度改革」及び「提言」『ロシアにおける企業制度改革の動向』, 平成14年度外務省委託研究報告書, 日本国際問題研究所
- 2003年3月:「プーチン政権の社会政策改革」『プーチン政権におけるロシア社会・労働法制の改革』, 平成14年度外務省委託研究報告書, 日本国際問題研究所
- 2003年3月:「提言」『中央アジアをめぐる新たな国際情勢の展開』, 平成14年度外務省委託研究報告書, 日本国際問題研究所
- 2003年3月:『南東欧諸国外国投資促進調査』, 平成14年度外務省委託研究報告書, 日本国際問題研究所
- 2003年3月:「ロシアの対米外交」『9.11事件以後のロシア外交の新展開』, 書籍, 日本国際問題研究所
- 2004年2月号:「プーチン政権第二期の課題と展望」, 国際問題, 日本国際問題研究所
- 2004年3月:「ロシア・CISの資源戦略調査」, 平成15年度外務省委託研究報告書, 日本国際問題研究所
- 2004年3月:「ロシアの対米外交」『イラク戦争後のプーチン政権の対外政策全般』, 日本国際問題研究所
- 2004年3月:「ロシア・トルクメニスタン関係」『イラク戦争後のプーチン政権の対中央アジア政策』, 日本国際問題研究所
- 2004年3月:「ロシア財政連邦関係」『プーチン大統領の進める焦眉の制度改革』, 日本国際問題研究所
- 2004年6月号:「プーチン政権の経済改革」, 国際問題, 日本国際問題研究所
- 2005年:「ロシア及びCIS諸国における資源戦略」, 日本国際問題研究所